

多賀谷左近三経公墓所



(1) はじめに

今から400年前、この台地が「柿原郷」と呼ばれていた頃、初代福井藩主結城秀康の重臣・多賀谷左近三経が3万2千石を与えられ、山十楽に館を構え、北面の加賀国へ備え、警護に当たっていました。城下町は大いに栄え、柿原郷千戸と称されていました。治世は、善政の名高き7年でした。

その墓所は、柿原区の墓堂と言われる所であり、「あわら市の指定史跡」になっています。三経は慶長12年(1607年)4月に病没した主君・秀康を追うように、7月21日に41歳で没し、火葬の上、この墓堂に納骨されました。戒名は黔宗祥堅居士、その後、末孫の虎千代が五輪の供養塔を建立しましたが、昭和23年の福井地震で倒壊しました。昭和63年から当時の金津町教育委員会によって修復作業が進められ、平成3年に現在の墓所が完成しました。当時、土の中から骨壺が発見され、骨は富山医科薬科大学の鑑定を受け三経のものと確認され、改めて納骨されました。菩提寺である柿原の専教寺で、厳粛に納骨法要が営まれました。

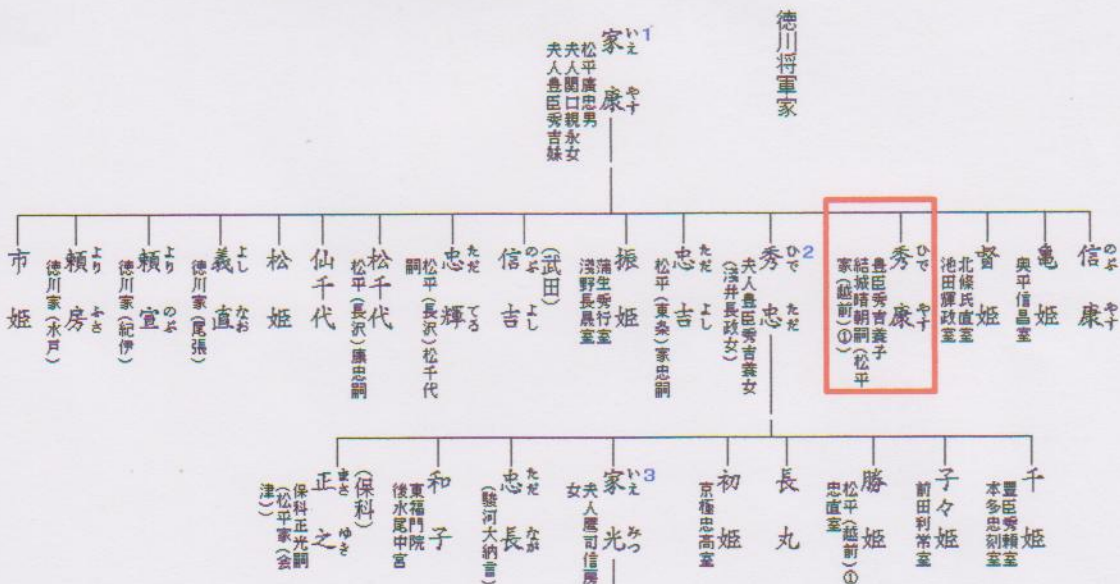
それから22年が過ぎました。今も供養塔と宝篋印塔は昔の通り、館の在った方角に向き、静かに座しています。しかし、訪れる人も少なく、地元の人々にもその存在すら忘れ去られるという状況になりつつあります。

現在、地元の有志による「多賀谷左近三経公奉賛会」で、墓所の護持がなされ、多賀谷左近三経公の遺徳を偲び、その善政を顕彰するための活動が展開されています。

(2) 徳川秀康と多賀谷左近三経



結城秀康像(蓮正寺蔵)



関ヶ原の戦いで天下の実権を握った徳川家康は、大いに論功行賞を行い、家康の第二子・秀康には越前一国68万763石を与えました。秀康の入国は慶長6年(1601年)の5月、彼が28歳の時でした。秀康は幼少の頃、羽柴秀吉の養子となったので、秀と康を組み合わせた名を与えられましたが、天正18年(1590年)に下野(栃木県)の結城晴朝の養子となり結城姓を名乗りました。そして、越前侯となった時、家康の命で徳川の姓にもどり、秀康の5男を結城家にやりました。

秀康は入国して、先ず境界を明らかにして、家臣を配置しました。本多富正は府中城、多賀谷左近は柿原鎮(坂井郡)、今村盛次は丸岡城、山川朝貞は谷口鎮(吉田郡)などで、これ等の家臣を越前13人と言いました。秀康はかなりの人物で、部下を愛し、人民の心をつかんで善政を行い、100歳以上の老人には特別の扶持を与えて慰めたといわれています。

又、商工業を保護し、種々の特典を与えました。領内の社寺が一向一揆以来甚だ荒廃していたので、修繕したり、領田を寄進したりしました。しかし、僅か34歳の若さで、北ノ庄城の完成した翌年(1607年)に亡くなりました。

秀康が結城から越前に入国する時、大田（茨城県）の城主・多賀谷左近を引連れて来ました。秀康は左近に柿原の鎮として3万2千石（竹田川以北の全域）を与え、越前北門の要害を守備させました。秀康の信任を受けた左近は感激し、忠誠を誓いました。

（3）多賀谷左近三経

多賀谷氏は元々、結城氏に仕え、三経は幼名を虎千代と言いました。虎千代の父・重経は下妻城主で、関の庄33郷・6万石を領していました。石田三成に名付け親を頼み、三成の三と父の経を一字ずつもらい、三経と名乗ることになりました。

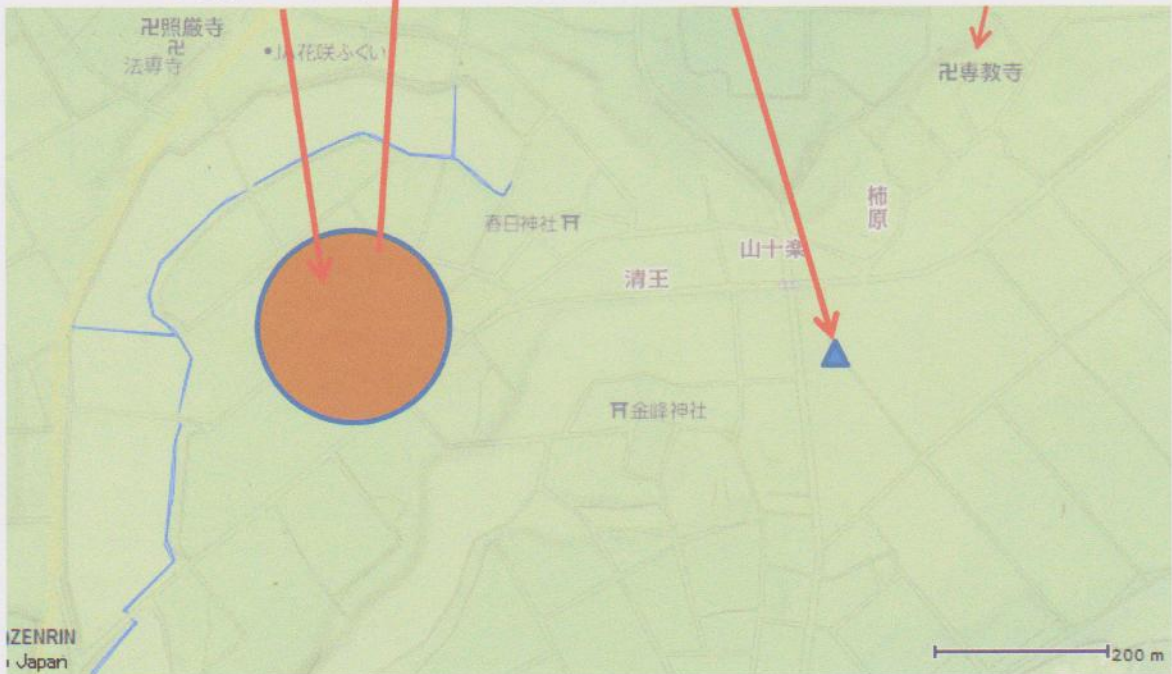
多賀谷左近は柿原十楽の台地に館を築き、家臣200余戸を引連れて、館の付近に刀鍛冶、弓師、町人等を集めて柿原郷の城下町を作り、国境警護に当たりました。また、橋屋爪谷の4反6畝の大きな貯水池、滝の「ふたまたつつみ」や樋山の大谷溜池も左近の普請であると伝えられています。



多賀谷左近の館

多賀谷左近三経の墓所

菩提寺



福井藩の拠点は、現在の福井県庁が在る所で、北ノ庄城とも言われていました。そして、その城を守るために重臣4家老の屋敷が、下図のように配置されていました。



○多賀谷 (坂井郡)

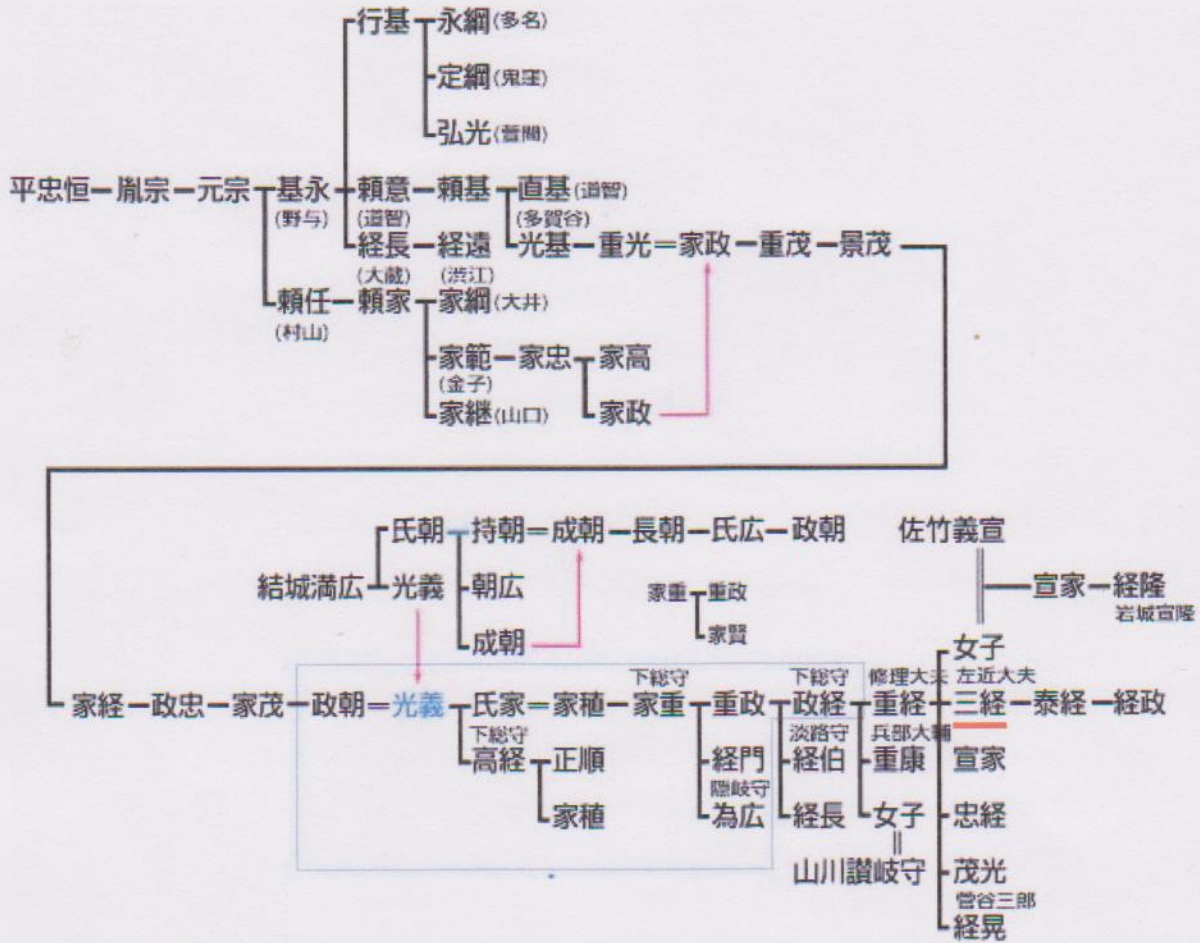
○本多 (府中城)

○山川 (吉田郡)

○今村 (丸岡城)

多賀谷家の系図は次の通りです。

■参考略系図



多賀谷左近三経公の出身地である茨城県下妻市では、その居城であった多賀谷城跡を「指定遺跡」としています。そして、そこを中心に毎年「多賀谷時代まつり」が行われ、下妻が城下町として栄えた歴史と文化の再発見を行っています。多賀谷家が最も栄えたのは、三経の祖父・政経の時代でした。





(4) 三経公の弟・了西と専教寺

当寺は天安二戊寅年（858年）、空海（弘法大師）の直弟子である空量が草創したものです。空量和尚が初めて、この地に来たのは空海入定以来24年目でした。常随の小僧・密源と一空の2僧を伴って行脚しているうち、この地に靈気を感じて踏み入り、当地を開いて一字を建立しました。

その頃、この地には柿の林があって、そこには大きな蓮池があったので誰いうとなく「柿原」といわれるようになり、寺名も大蓮寺と名づけられました。空量和尚（61歳寂：872年）の後、密源が継ぎ檀家800余りの大寺と栄えました。

以来、600年間、真言密教の寺院として21代相続されてきましたが、1462年、傳鎮和尚の時、浄土真宗に改宗しました。傳鎮和尚改め釋道覚法師となり、寺号も大蓮院専教寺と改めました。現在の住職は、40代第19世です。

三経公の次弟が、28代第7世の住職、釋了西法師です。三経公亡き後に多賀谷家中で兵乱が起きた時、300人の檀家を引連れて加勢しましたが、落城、敗退してしまいました。了西法師は従僧と共に加賀辰口に逃亡しましたので、寺は廃寺のように荒れてしまいました。20年後の1627年の秋、了西は一子了光を連れて帰山し、寺の再建を進め、多賀谷の菩提を弔いました。

